

# 私の博物誌

題字 石川進

## 第十六回 「北国の旅」

「入学した学校を卒業したことがないの  
…」という、妻の話を何度か聞いた。私自  
身は生まれた町で育ち、大人になり家業を  
継ぎ、妻を養い、そしてたぶんこの町で、  
一生を終わるのだらうと思いつつ生活し  
てきた。無論これからも。

二〇〇六年に父を、そして二〇一三年に  
は母を送り、長男としての肩の荷を下ろし  
たような気持ちを少しだけ感じながら、自  
分に残された時間もそう永いものではない  
ことに気が付いた。

黙って私の後をついてきた妻も、五月に  
は満七十歳になる。何か思い出に残るこ  
とをと思ひ、妻に問うと、学生生活最後の  
一年だけを送り、卒業校でもある弘前学園  
聖愛女子高校を見たいとのことだった。古  
くて美しかった木造校舎には格別の思いが  
あったらしいのだ。

ああしたいとか、こうしたいとかを口に  
しないのは、母親に似ているのだが、昨年  
十月下旬、思い切って北への旅にのぼるこ  
とにした。

とにした。  
従兄から頂戴したばかりのニッサン・  
ミストラルは快調なエンジン音を立てて、  
五百四十キロを走り抜け、夕方早めに弘前  
市に入った。三十二年前、津軽富士の麓へ  
既に移転した学校は、男女共学となり、学  
生たちはスポーツに興じ、若者たちのエネ  
ルギーには深い共感を持った。

銀行員だった義父は、この地が最後の任  
地で定年を目前に退職、東京で第二の人生  
に一步を踏み出そうとする。昭和三十七年  
ごろの話だ。一年余りの短い時を妻の家族  
はこの地で過ごしたわけだ。理由は分から  
ないが、本当に懐かしいという。二十分ほ  
ど車を止め、カメラを手に何枚かの写真を  
撮って、もういいわと妻はいった。

二日目は北端の龍飛へ行こうと話を決ま  
り、金木町の斜陽館まで北上した。太宰  
治の生家であり、ニヒルな傾向の作品が多  
い作家だ。和洋折衷の建物は見どころも多  
く、目に付いた青森檜葉の二尺ほどの切り

株は、北国に育った年輪の稠密さから、北  
国の自然の豊かさと厳しさの二つを同時に  
感取ってきた。  
しばらく北上を続けると自然が開け、予  
想をはるかに超える大きな汽水湖が眼下に  
見える。十三湖だ。既に西に傾いた陽光が、  
湖面とはるかな日本海をキラキラと光らせ  
ている。

龍飛の二十キロほど手前からは急峻な山  
が迫り、数回の峠越えをした後、津軽海峡  
を眺望する龍飛の崖上、二百メートルほど  
の終点に到着した。海峡の波は岸へは向か  
わず、太平洋と日本海の両方からぶつかり  
合い、海峡の中に白波を立てている。

意外にくつきりと目前に見えるのは松前  
半島らしく、珍しく良く見えているとは人  
いう。峠の往復で見たブナの林の、未だ紅

葉しきれない赤、黄、緑の段斑のパステル  
カラーや、十頭余りの北限の野猿は、人を  
恐れもせず、しかし馴れてもいない様子に  
好ましい野生を見ることができた。強風の  
山頂から見る海は、航行するフェリーボー  
トや、荷物船が想像以上に多く、白い航跡  
は紺青の中に映えて美しい。  
帰途に予定していた「しじみ亭 奈良屋」  
に入り、蛸づくしの食事を注文し、大好物  
の蛸汁を追加注文すると、サービスですか  
らおあがり下さいとの温かい言葉。さすが  
に三杯目を所望するわけにも行かず、今で  
もあと一杯の「蛸汁」が何とも未練たらし  
く、思い出すと唾が出る。  
三泊四日の走行距離千五百キロ、自然美  
と人工美、「眼福と口福」を得た旅だった。



十三湖の夕景



和洋折衷で見どころも多い「斜陽館」



書いている人

石川 進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平  
生まれ。石川紋店代表。  
家業のかたわら、幼少か  
ら書に親しむ。書の世界で  
培った点・線・面と墨・紙・  
水の生理を追求し、石刻に  
よる印とのコラボによる抽  
象、具象の絵画表現を展開。  
書学書道史学会会員、書  
法探求顧問



そのホームページ  
リニューアル  
しませんか?

料金等の詳細は、弊社までお問い合わせください

月刊 いと  
(株) いわきジャーナル  
福島県いわき市鹿島町走熊字小神山29  
(ヤスミツ第1ビル・2-A)  
TEL.(0246)29-2424/FAX.(0246)29-2425  
E-mail:read@iwaki-j.net

Super  
ViO 30

土木建設機械・販売・リース

株式会社 協和機工

KYOWA

代表取締役 大淵 利男

〒971-8143 福島県いわき市鹿島町下蔵持字戸の内70の1  
☎(0246)29-4100(代) FAX(0246)29-4200

より厳かに より荘重に……

●大ホール200名収容 ●小ホール80名収容

宗教・宗派をとわず  
どのような葬儀も  
お任せください。

本多斎苑

〒971-8111 福島県いわき市小名浜大原六反田町7-5  
TEL(0246)92-1500 FAX(0246)92-1505